

## 4月のコラム 未来に希望が見える社会に！

新年度がスタートし、先週は各地で入学式や入社式が行われました。今の若者たちにはどんな未来が見えているのでしょうか。

失われた20年と言われてからさらに10年が経ち「安い日本30年」と言われるようになってしまいました。安さを売りにする社会で当たり前のように生活してきたバブル崩壊後の30年間。危機に気づかないふりをしているうちに、世界はどんどん変化していました。かつて日本が安い賃金を求めて進出した国でも「日本は、給料が安いし、今後の昇給や成長の見込みがない」と人気なくなり、現地企業に採用負けする事態にもなっているそうです。

気がつけば、日本企業と思っていた会社や老舗ホテル、不動産に多くの外国資本が入ってきています。中小企業の買収の仲介をする会社への問い合わせは、ここ2年間で4倍となり、今年に入ってさらに増えているそうです。中国、欧米に加えシンガポール、マレーシアといった東南アジアからの問い合わせが増えているとか。この2年といえばコロナで経済は止まっていると思っていたけれど・・・世界では動いていたのですね。スイスのビジネススクールが発表する「世界競争力ランキング」では、1989年に1位だった日本は、30年間下降を続け2022年は34位。タイ33位、マレーシア32位だそうです。

海外ファンドの企業買収といえば、「ハゲタカ？」と悪い印象しかありませんでしたが、ある報道番組で紹介されていたいくつかの企業では、海外ファンドが経営するようになったことで決済が早くなり、技術開発が進んだ。リスクがあってもチャレンジできる風土に変わった。日本国内にしか向いてなかった営業先を世界に向けることでチャンスをつかんだ。と将来への活路を見い出していました。

労働政策研究・研修機構の「データブック国際労働比較」の2023年版は実態を知るには良い資料です。現実を直視することは、進むべき方向への決意につながると思います。

労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2023」

<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2023/index.html>

先日発表された「異次元の少子化対策」。なるほど、政策を考える人たちは、私達とは異次元に住んでおられるようです。異次元から国民のいるこちらの世界に来て欲しい！！子どもたち、若い人たちに希望の持てる未来を見せてあげたい。もちろん私たちの社会、企業の明るい将来像も！

2023年4月 水田かほる